

[illegible]

3 進路学習について

中学部では進路について系統的、段階的に学習を進めることができるよう、4年前から生活単元学習の中で進路学習に取り組んでいる。授業では、中学部で身に付けたい力として「働く力」、「生活する力」をとり上げている。この2つの力を軸に、各学年でテーマを設定し、学習を展開してきた。



昨年度の学部研究を踏まえ、実践をさらに深めるため、今年度も進路学習を研究対象とした。昨年度は中心教科を職業・家庭科としたことで、授業づくりや学習評価が同教科の観点に偏りがちになる点が課題として挙げられた。今年度は教科の枠にとどまらず、生徒の興味・関心や生活上の課題により着目するなど、生活単元学習の授業づくりの視点を大切にしながら、生徒の実態に即した指導と評価の充実を図っていく。

4 提示授業について

提示単元として、生徒にとって身近な保護者の職場を題材として取り上げた「Go!Go!中2!!～わが家のお仕事調査隊～」を実施する。昨年度は、地域の施設を実際に訪ねて、自分たちの暮らす地域を知る「Go!Go!中1!!」を展開した。今年度はその取組を生かしながら、進路学習の視点を強化した展開を目指す。夏休み中に家庭で実施したインタビューを基に、休み明けにプレゼンテーションを行い、投票によって実際に見学へ行く職場を生徒自身で決定していく。本単元では、身近な仕事への興味・関心を高めるとともに、昨年度の課題である自立活動の視点に基づく支援や手立てを取り入れ、生徒の自己理解をより深めることを目指した指導を展開する。

提示対象の中学部2年生は、日々の学校生活や学習の見通しをもてるようになり、校外学習での調べ学習やICTを活用した発表の経験を重ねている。また、作業学習や校内実習を通して、自分の得意・不得意を意識するなど、将来の働くことへの関心も高まっている。生徒の実態は以下のとおりである。

生徒A	保護者の職場の名前と場所を理解しており、仕事内容についても漠然と把握している。将来は農家になりたいという夢をもっており、関連する作業学習に意欲的に取り組んでいる。
生徒B	卒業生の進路について担任に自分から質問する姿が見られた。働いて収入を得ることに意欲をもっており、ゲーム関連の仕事に興味をもつが、自分のイメージと実態に差異が見られる。
生徒C	進路学習に取り組む中で、身近な職場について学習を進めている。縫製の仕事やコンビニの店員などいくつかの職場に興味・関心を示す姿が見られた。
生徒D	保護者の職場の名前を理解しているが、具体的な仕事内容については把握できていない。工作が好きで、将来は大工になりたいという夢を持っている。
生徒E	今年度から就職した兄の職場に興味をもっている。自分から兄に仕事内容を聞いたり、兄の職場のSNSを見て「自分にもできそう」と話したりする姿が見られた。
生徒F	保護者が職場で働く姿をイメージしきれておらず、自分の具体的な将来の姿や希望も曖昧としている。前期の実習では、自分の課題を基に目標を立て、作業に臨む姿が見られた。